（２０２６改訂）

集団がん検診を受けよう！その前に…

安全に集団がん検診を受けていただくために、以下に記載された
「✕検診が受けられない」「ご注意ください」をご確認ください。
※自覚症状のある方は医療機関での受診をおすすめします。

ご 磁気や放射線の影響を受ける可能性があるため、インスリンポンプ、持続グルコース測定器を装着したままＸ線検査（肺がん検診、胃がん検診、乳がん検診）を受診いただくことはできません。

肺がん検診

装置の体重制限１３５ｋｇまで

✕ 妊娠中、または妊娠の疑いのある方 → 裏面⑳

胃がん検診(バリウム検査)

装置の体重制限１３５ｋｇまで

✕ バリウム製剤、センノシド製剤（下剤）に対しアレルギーがある方 → 裏面①
✕ 透析中、慢性腎疾患、心疾患で水分制限がある方 → 裏面②、③
✕ 腸閉塞やイレウスの既往がある方 → 裏面③
✕ 慢性呼吸器疾患で在宅酸素療法の方、脳圧亢進でシャント中の方 → 裏面④
✕ 検査前夜、９時以降に飲食した方 → 裏面⑧
✕ 現在、消化管系の炎症性疾患・潰瘍性疾患の治療をしている方 → 裏面⑤
✕ 人工肛門造設中の方、１年以内にお腹の手術（手術跡が残るもの）をした方 → 裏面⑥、③
✕ 検査当日を含み、３日以上便秘が続いている方 → 裏面③
✕ 検査当日、糖尿病の薬を服用又はインシュリン注射をした方 → 裏面⑦
✕ 妊娠中、または妊娠の疑いのある方 → 裏面⑲、⑳
✕ 意思疎通が困難な方、寝返り回転が困難な方 → 裏面⑨
✕ 日常的に食物や飲物が飲み込みにくく、むせやすい傾向にある方 → 裏面⑩
ご 授乳中の方は下剤の成分により乳児が下痢をする可能性があります。→ 裏面⑪

大腸がん検診

✕ 生理期間中の方は採便しないでください。→ 裏面⑫
ご 胃がん検診を受けられた方はバリウムの影響がありますので、少なくとも１週間の間をあけてから採便してください。

乳がん検診（マンモグラフィ検査）

✕ 妊娠中、または妊娠の疑いのある方 → 裏面⑭、⑳
✕ 脳室ー腹腔シャント（Ｖ－Ｐシャント）チューブが入っている方 → 裏面⑬
✕ 胸部にペースメーカー・リザーバーポートを埋めている方 → 裏面⑬
✕ 美容豊胸手術を受けた方 → 裏面⑬、⑭
✕ 授乳中または断乳後６ヶ月以内の方 → 裏面⑭
ご 乳がんなどによる術後再建術の場合は手術していない側の撮影のみ可能です。

子宮頸がん検診

装置の体重制限１３５ｋｇまで

✕ 生理期間中の方 → 裏面⑮
✕ 妊娠中、または妊娠の疑いのある方 → 裏面⑱
✕ 今までに性交渉のない方 → 裏面⑯
✕ 子宮を全摘されている方 → 裏面⑰

検診が受けられない、ご注意いただく理由

① アナフィラキシーショック（顔面蒼白、呼吸困難、血圧低下、意識消失、蕁麻疹 など）を起こす恐れがあります。

② 水分制限がある場合、バリウム排出が困難になります。

③ バリウムが停滞し、便の排出が遅れるとバリウム塊による消化管の穿孔（穴が開く）など重篤な合併症を起こす恐れがあります。

④ 病状が悪化したり、重篤な合併症を起こす恐れがあります。

⑤ 停滞したバリウム塊によって消化管の穿孔（穴が開く）や病状の悪化を招く恐れがあります。

⑥ 手術した周辺が癒着していると、通過障害を起こす恐れがあります。

⑦ 検査当日食事をせずに服薬・注射をすると低血糖状態になりやすく、さらに発泡剤により消化器管内圧が上昇することで一過性の血圧低下を起こす恐れがあります。

⑧ 食べものが胃に残っていると、正確な検査となりません。

⑨ スピーカーからのアナウンスによる息止め指示（吸気、呼気）や、体位変換指示（仰向け、うつ伏せ、左右に回転、鋭角な頭低位）に従ってスムーズな反応が困難だと、安全確保の面や精度確保の面において、結果的に有益な検査となりません。

⑩ バリウムの誤嚥（気管や肺に誤って入ること）により、窒息・呼吸困難状態から低酸素血症につながる恐れがあります。更に重篤な合併症として、誤嚥性肺炎を発症する恐れもあります。

⑪ 授乳中の方用の下剤（ピコスルファートナトリウム水和物）を準備しておりますが、ご心配な方は産院または医療機関にご相談ください。

⑫ 腸からの出血と月経による出血の区別ができません。

⑬ 乳房を圧迫して撮影するため破損の恐れがあります。

⑭ 乳房が普通の状態ではないため、判定が困難になります。

⑮ 検査に必要な細胞が十分に取れない場合があります。

⑯ 子宮頸がんの原因の多くは性交渉で感染するＨＰＶ（ヒトパピローマウィルス）です。性交渉のない方が子宮頸がんを発症することは非常に稀です。医療機関での受診をおすすめします。受診の際はあらかじめ医療機関にご相談ください。

⑰ 子宮全摘者が子宮頸がんを発症することは非常に稀です。医療機関での受診をおすすめします。

⑱ 妊娠中の方は、妊婦健診の初回に子宮頸がん検診が含まれるため不要です。妊娠の疑いのある方は医療機関での受診をおすすめします。

⑲ 検査で使用する製剤類が、妊娠に影響を及ぼす恐れがあります。

⑳ エックス線による胎児への影響はほとんどありませんが、心身の変化における影響を考慮しています。産後の受診をおすすめします。

ご不明な点がございましたら　石川県成人病予防センター（電話 076-237-6262）にお問い合わせください。